

平成25年度 予算特別委員会付帯意見および回答

平成25年3月定例会後に町長に提出した付帯意見に対する回答が5月21日に届きましたのでご紹介します。

意見1 交通指導隊員等の 公募・女性登用 について

町の交通指導隊員等では、定員割れのところがあったり、あるいは防災会議などでもっと町民の参加があってもよいように思われるところがある。

こうした隊員や委員の補充を広報などで一般公募したり、女性の登用も積極的に行うこと。

回答 交通指導隊員など定員割れの組織については、これまで隊員や委員の協力を得ながら定員確保に努めたが、なかなか確保できない状況にある組織もある。組織の活動を活性化するためにも定員確保は重要であるので、広報などで公募してみたいと考えている。

また、女性の登用についてはこれまでも積極的に行ってきているので、今後も引き続き行っていきたい。

意見2 非常用発電装置の 維持管理について

国の経済対策で設置される避難所施設非常用発電装置は、町内の5小中学校と旧岩館小学校の計6か所に設置されるが、非常時に作動しないなどということがないように、定期的な試運転を行うなど設置後の維持管理を徹底すること。

回答 非常用の発電装置であることから、自動で定期的な試運転を行うタイプを設置し、非常時に作動しないということがないように、維持管理を徹底していきたい。

意見3 夕映の館等の 指定管理について

地域の集会施設の機能をもつ夕映の館や漁火の館は、農村・漁村体験の際の宿泊施設としても利用されているが、町の負担も大きく、他の自治会の集会施設とのバランスも考慮し、指定管理者制度への移行を検討すること。

回答 夕映の館、漁火の館は、グリーンツーリズム、ブルーツーリズムの拠点施設として建設し、設置当初から、夕映の館は、本館グリーン・コミュニティ協議会に、漁火の館は、岩館ブルーツーリズム協議会に管理の一部を委託して現在に至っている。指定管理者制度への移行については、関係自治会と協議を重ねて



本館自治会の集会所でもある夕映の館（左）と岩館第2自治会の集会所でもある漁火の館（右）

意見4 プレミアム付き 商品券について

町内でのプレミアム付き商品券の発行はこれまで

いるが、未だに理解は得られていない。今後も、関係自治体と指定管理者制度移行への協議を重ねていく。

で4年間延べ5回実施され、町民及び商業者にそれなりの効果があったと思うが、商業者も創意工夫をし、もっと販売強化を図るよう指導されたい。

回答 プレミアム付き商品券発行事業は、これまで延べ5回実施されたが、個人消費の拡大による地域商業の活性化が図られたものと判断している。

今後も、商品券発行事業への助成を行うとともに、白神八峰商工会と連携し、商業者の販売強化事業を促進していく。

意見5 ぶなっこランドの 今後について

ぶなっこランドは、来年度で補助金適正化法の縛りが解けるが、県とも協議して今後の活用計画



ぶなっこランドの今後の活用は？

を早く策定すること。

回答 ぶなっこランドは、県が設置した「森林科学館」と町が設置した「白神ふれあい館」、「バークユーハウス」、「木工体験館」及び遊歩道等で構成されており、白神山地登山者のインフォメーションセンターとして、またエコツーリズムの拠点施設としての役割を担っていた。

近年、あきた白神体験センターの開設や日本ジオパークの認定など、

ぶなっこランドを取り巻く環境も変化してきていることから、平成25年度において今後の活用計画を策定する。

意見6 生薬栽培の 全体計画について

町が昨年からはじめた生薬の研究栽培であるが、まだ全体計画すら出されておらず、町が目指す方向が理解できない状態にある。早期に計画の全容を示すとともに、町民にも情報提供を行うこと。

回答 生薬については昨年8月から勉強会を開始して、その生薬や厳しい規格等について学んできた。数多くある生薬の中で八峰町の気候、風土に合う品目は何か、その品目の原種子を確保できるかどうか、栽培者が見込

めるかどうか、また収穫された生薬を購入してくれる製薬会社があるのかどうか等々検討している状況である。

町で生薬を栽培した場合、購入を予定している製薬会社は現在のところ1社となっており、この会社が必要とする品目を主体に試作栽培する計画である。生薬栽培の町が目指す方向や現段階での計画については、6月議会までに提示し説明したいと考えている。

意見7 林道の維持管理 について

平成23年度より林業業務は現在の農林振興課に移されたが、災害復旧を除く林道の維持管理は建設課に移った。町民から困惑する声が多いことから林道の維持管理と林道

意見8 ふれあい橋の改修 について

の災害対応を行う部署を一本化すること。

回答 これまで林道の維持管理については建設課で実施していたが、平成25年4月1日付けの人事異動で建設課所属の職員1名を農林振興課に配置替えし、林道に関するすべての業務を農林振興課で行うように変更した。

沢目駅構内のふれあい橋は駅前とカッチキ台地区の往來の利便を図るために整備されたものであるが、最近では利用者も激減して、維持経費が重くのかかっているのが実態である。エレベーターや自動ドアなどは維持経費が嵩むためこれを廃して、スロープを付けたも